

# お砂糖はじまりものがたり

砂糖の歴史はたいへん古く、シュガー(Sugar)という英語は、古代インドで用いられていたサンスクリット語のサルカラ(Sarkara)であるといわれています。世界と日本で、砂糖づくりがどのように広まっていったのか、見てみましょう。

## ★世界での歴史★



アレキサンダー大王が、さとうきびを発見！

今から約2,300年前、アレキサンダー大王のインド遠征軍の記録に「蜂の助けを借りないで蜜をもたらす葦がある」とあり、これがさとうきびの発見といわれています。



十字軍が持ち帰った物の中に、さとうきびが！

11～13世紀ころ、十字軍がヨーロッパにさとうきびを伝えたといわれています。やがて、気候があたたかい地中海のまわりで、砂糖づくりがさかんになりました。

ナポレオン、てん菜による砂糖づくりに注目。

18世紀、ドイツの科学者が「てん菜」から砂糖の成分を取り出すことに成功。ナポレオンもこれに注目し、ヨーロッパ中で、てん菜による砂糖づくりが広まりました。



### ココが歴史のポイントじゃ

お砂糖は4,000年以上の歴史を持ち、歴史上の人物とのかかわりも深い。



## ★日本での歴史★



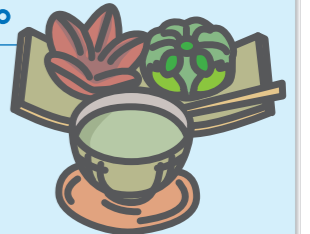
日本に伝えたのは、中国の僧りよ・鑑真。

8世紀に、中国から日本に伝えられた砂糖は、珍しい薬として用いられました。奈良の大仏にささげた薬の記録にも、砂糖の意味の「蔗糖」という言葉が残っています。



茶の湯の広がりとともに、和菓子が流行。

14世紀には、貴族や武士が茶の湯を楽しむようになり、和菓子づくりがさかんになりました。その当時、日本では菓子を作るため、中国から砂糖を輸入していました。



織田信長に贈られた、貴重なコンペイトウ

16世紀には、ヨーロッパの文化とともに、南蛮菓子が伝えられました。ポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスが、織田信長にコンペイトウを贈ったといわれています。



徳川吉宗のもとで、さとうきび栽培が発展。

18世紀、8代将軍徳川吉宗は、日本国内での砂糖づくりをさかんにしようと、江戸城の中で試験的にさとうきびを栽培したり、各地で砂糖を作ることをすすめました。

北海道に日本初の「てん菜糖工場」誕生！

19世紀、明治政府はてん菜の種を輸入して日本各地で栽培をはじめ、紋鼈村(現・伊達市)に日本初の「てん菜糖工場」を作りました。これが北海道での砂糖づくりのはじまりです。